



中谷 多哉子

筑波大学大学院

ビジネス科学研究科

准教授

要求工学知識体系(REBOK)と要求工学の実践

プロフィール

東京理科大学理学部応用物理学卒業後、日本電子計算(株)、富士ゼロックス情報システム(株)を経て1995年よりエス・ラゲーンを起業。

筑波大学大学院経営・政策科学研究科経営システム科学専攻修了。

東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程修了。

2006年より筑波大学大学院ビジネス科学研究科准教授。

オブジェクト指向分析手法、要求獲得手法に関する研究に従事。博士(学術)。

講演概要

要求工学知識体系REBOKの書籍が出版され、1年が経過した。REBOKによって、技術者やユーザ企業に要求工学の基本的な用語、プロセス、手法などの存在が知られるようになった。しかし、要求工学の実践は、知識だけでは困難である。この講演では、REBOKの中で、特に要求獲得に焦点をあて、要求品質を高めるための方策を紹介する。

たとえば、要求仕様書に求められる推奨品質は、IEEE Std.830-1998に示されている。しかし、どのようにすれば品質を確保できるのかは示されていない。そこで、レビュー観点を定めたインスペクションが、実際の要求仕様書の品質上の問題をどの程度発見できたのかを、簡易な実験の結果とともに紹介する。また、技術者の教育によって、仕様書のレビュー観点が、どのように変化するかについて、要求工学の技術者教育の成果を含めて示すこととする。

また、要求獲得の特徴を再認識することによって、プロジェクト管理で失敗しないための定量的な要求獲得プロセスの監視方法とその事例を紹介する。ここでは、要求獲得プロセスを観察し、管理するための3つの定量尺度を紹介し、事例を用いた観測結果を示し、その成果を紹介する。